

トヨタ車体、ダカール2018での市販車部門5連覇に向け、 ランドクルーザー200シリーズマイナーチェンジモデルをベースにした新型ラリー車で参戦

トヨタ車体株式会社（本社：愛知県刈谷市 取締役社長：増井 敬二）のラリーチームであるチームランドクルーザー・トヨタオートボデー（以下、TLC）は、2018年1月6日にペルーのリマをスタートする『ダカールラリー2018 ペルー・ボリビア・アルゼンチン』の市販車部門に、当社が開発・生産を担うランドクルーザー200シリーズをベースにしたラリー仕様車2台で参戦し、同部門5連覇に挑みます。

当社は『もっといいランドクルーザーづくり』を進めるために、ランドクルーザーを鍛える舞台として世界一過酷とも言われるダカールラリーを選び、20年以上にわたり、市販車部門にこだわったラリー参戦活動を継続しています。

2018年大会では、2015年8月にマイナーチェンジを迎えたランドクルーザー200シリーズをベースとする新型ラリー車を初投入します。

2018年仕様の新型ラリー車は、これまでのラリー参戦活動において、改造が許される範囲での改善を積み重ね、進化させてきたラリー車づくりのノウハウを引き継ぎながら、ベース車両のマイナーチェンジにより一層高まった走破性を最大限発揮できるよう、エンジンコンピューターのセッティングを煮詰め、従来以上にトルクフルで操縦性の高いラリー車に仕上げ、ライバルを圧倒するパフォーマンスを目指しました。

また、市販車部門4連覇を3年ぶりの1-2フィニッシュで達成した2017年大会のチーム体制を継続し、1号車ドライバーにはクリスチャン・ラヴィエル(フランス)を、2号車には当社社員ドライバーの三浦昂を起用し、一層熟成されたチームワークで2年連続1-2フィニッシュによる市販車部門5連覇を目指します。

なお、2018年大会にも2007年より継続しているバイオディーゼル燃料(BDF)をラリー車の燃料として使用します。このBDFの原料は、TLCを支えて頂いているスポンサー各社をはじめ、近隣小中高校、ならびに当社従業員などの協力を得て集めた廃食油を利用しています。廃棄される油を再利用し、環境に配慮したモータースポーツの推進を進めるとともに、一人でも多くの方々とダカールラリーへの挑戦を共有することで、クルマの持つ『ワグドキ』を分かち合えるファンとの一体感を大切に活動を目指しています。

トヨタ車体は、ダカールラリーへの挑戦を通じて、ランドクルーザーファン、クルマファンの拡大につなげるとともに、人とクルマを鍛え、世界中のお客さまから愛されるクルマづくりを進めて参ります。

世界のくらしに、笑顔届けたい



1.チーム名

Team Land Cruiser TOYOTA AUTO BODY (チームランドクルーザー・トヨタオートボデー) ※通称TLC

2.ダカールラリー-2018参戦車両

2017年大会で新しく導入したサスペンションにより路面追従性を高め、スピードアップした2017年仕様のラリー車と、2015年8月にマイナーチェンジを迎えたランドクルーザー200シリーズのベース車両の進化を融合し、砂丘路面での操縦性を向上。2018年大会の勝負どころになると予想されるペルーの砂丘ステージでの戦いを有利に運べるクルマに仕上げています。



※イラストは
1号車デザイン

【ランドクルーザー200シリーズ ダカールラリー2018仕様車スペック】

項目	スペック内容
ベース車両型式	VDJ200
エンジン型式	1VD-FTV型
総排気量	4,461cc
全長 / 全幅 / 全高	4,950mm / 1,970mm / 1,910mm
最高出力	300ps以上
最大トルク	800N・m以上
ステアリング	ラック & ピニオン式
サスペンション	前/ ダブルウィッシュボーン式独立懸架コイルスプリング (BOS製)
	後/ トレーリングリンク車軸式コイルスプリング (中央発條製)
ショックアブソーバー	リザーバータンク付単筒ガス式 (BOS製)
ブレーキ	前後ベンチレーテッドディスク (エンドレス製:ブレーキパッドのみ)
トランスミッション	5速マニュアルトランスミッション
タイヤサイズ	285/70R17 (BF GoodRichi Mud-Terrain)
ホイール	マグネシウム鍛造 17インチ×7.5J (ENKEI製)
駆動方式	4輪駆動 (フルタイム4WD)

(上記スペックは1号車、2号車共通)

世界のくらしに、笑顔をお届けしたい



3.ダカールラリー2018参戦体制

監督、ドライバー、エンジニアに社員を起用し、“もっといい人づくり”への挑戦に取り組んでいます。

世界を相手に過酷な環境下で悪戦苦闘の日々を送り、異文化に触れ、そして、世界中のお客様がクルマを使う道を知ること、人を鍛えて、お客様の期待を超える“もっといいクルマづくり”につなげます。

【チームメンバープロフィール】

(*1:2017年11月2日時点)

体制	氏名	年齢(*1)	備考	
チーム代表	スギウラ カヅキ 杉浦 一成	 56歳	1960.12.17生 トヨタ車体(株)常務役員 2017年4月よりチーム代表に就任。 「厳しいときこそチャレンジ、勝つために戦い抜く！」 の決意のもと、チームを支える	
チーム監督	カクニ ヲウジ 角谷 裕司 社員	 43歳	1973.11.5生 トヨタ車体(株)広報室 元ハンドボール全日本代表という異色の 経歴を持つ。2015年よりチームを率い、 冷静な判断力でチームを部門4連覇に導いた	
1 号 車	ドライバー	クリスチャン・ラヴィエル Christian Lavieille	 51歳	1965.12.16生 TLC契約ドライバー オートバイのプロライダーから四輪車のドライバーに 転向し、数々のクロスカントリーラリーに参戦。 ダカールラリー2017では市販車部門優勝を 果たし、チームの部門4連覇に大きく貢献
	ナビゲーター	ジャン・ピエール・ギャルガン Jean Pierre Garcin	 54歳	1962.12.2生 TLC契約ナビゲーター TLC前身となるチームアラコ時代にナビゲーター として活躍後、総合トップ10争いに加わるチームの ナビゲーターを歴任。旧知の仲であるクリスチャン ドライバーとのコンビで5連覇を目指す
2 号 車	ドライバー	ミウラ アキラ 三浦 昂 社員	 34歳	1983.1.26生 トヨタ車体(株)広報室 社員ナビゲーターとして2007年大会からTLCで ダカールに参戦。2016年大会よりドライバーに 転向し、2017年大会では部門準優勝を獲得。 2018年大会で自身初の部門優勝を目指す
	ナビゲーター	ローラン・リントレクター Laurent Lichtleucter	 41歳	1976.2.16生 TLC契約ナビゲーター 世界各国のドライバーとのコンビを組んできた 豊富な経験を持つ。3年目となる社員ドライバー 三浦とのコンビで初の部門優勝を目指す

世界のくらしに、笑顔届けたい



体制	氏名		年齢 (*1)	備考
エンジニア	伊東 克巳 社員		48歳	1969.9.15生 トヨタ車体(株)広報室 トヨタ車体ボディ設計部にてプリウス、ノアなどの外装設計を経験。 マイナーチェンジモデルをベースとする新型ラリー車開発を担当
チーフメカニック	Philippe Challoy		58歳	1959.10.14生 TLC契約メカニック 1995年のチーム発足以来、メカニック陣を統括してきた敏腕チーフメカニック。 メカニックの腕はもちろんのこと、その人柄によりメンバーからの信頼も厚い
日本人 メカニック	山田 健太		32歳	1984.11.20生 福岡トヨタ自動車(株) 2017年大会では1号車担当メカニックとして初参戦を果たし、チームの部門4連覇に貢献。 日本人メカニックリーダーとして、2度目のダカールラリーに挑戦
	西村 勇樹		31歳	1985.11.4生 トヨタ自動車(株) 2017年大会よりチームに参加。 トヨタではランドクルーザーの性能評価を担当し、ラリーの経験をもついいランドクルーザーづくりに活かすことを視野に2年目の挑戦を迎える
	瀧井 亮平		29歳	1988.3.1生 福岡トヨタ自動車(株) 2017年4月よりチームに参加し、研修プログラムに取り組み、2018年大会でダカールラリーデビューを迎える。 即戦力としての期待が集まる新人メカニック

※その他、フランス人メカニック・カミオン(部品輸送トラック) スタッフ含む 計20名体制で参戦

4.参戦カテゴリー

市販車部門ディーゼルクラス(下表太枠部)

	部門	クラス
オート(自動車)	市販車	ディーゼル
		ガソリン
	改造車	
トラック		
2輪(バイク)		

※TLCはガソリンクラスを含めた市販車部門での優勝を目標に参戦します

世界のくらしに、笑顔届けたい



5. バイオディーゼル燃料(BDF)での参戦

(1) 使用するBDFについて

BDFとは植物性油を原料に作られた軽油の代替燃料であり、TLCは2007年大会からBDFでの参戦に挑戦。2009年大会からは自ら集めた廃食油を精製したBDFでの参戦に取り組むことで循環型社会の仕組みが広がっていくことを期待しています。

原料となる廃食油はTLCのラリー参戦活動に賛同いただいたスポンサー企業各社、ならびに小中高校をはじめとする近隣地域の皆さま、当社従業員などから提供を受けています。

当社は廃食油の提供という形で、一人でも多くの方々とダカールラリーへの挑戦を共有し、クルマの持つ楽しさや感動を分かちあうことで、クルマファンの拡大にも取り組んでいます。

また、株式会社デンソー(愛知県刈谷市)が取り組むCO2を吸収して成長する微細藻類から生産した藻油も加え、太田油脂株式会社(愛知県岡崎市)の協力により精製されたBDFでダカールラリーを走破します。

(2) BDFの環境性能

TLCはダカールラリーの全行程をBDF100%で走破します。これにより総走行距離を軽油で走行する場合に比べ、CO2排出量を約60%軽減することが可能となります。

(3) TLCのBDFでのダカールラリー参戦歴

開催年	2007(*1)	2008	2009	2010	2011	2012-2017
参戦車両	ランドクルーザー100		ランドクルーザー200			
BDF使用台数 (使用台数/出場台数)	1/3台	大会 中止	1/2台	2/2台	2/2台	2/2台
BDF混合比率	20%	-	20%	20%	100%(*2)	100%

*1)2007年大会は市販のBDFを使用

*2)2011年大会は一部区間のみ、軽油を使用

【参考1：TLCの過去の戦績】

開催年	1995-2004	2005-2008	2009-2017
使用車両	ランドクルーザー80 (1995-1998) ランドクルーザー100 (1999-2004)	ランドクルーザー100	ランドクルーザー200
成績	市販車ディーゼルクラス 優勝7回	市販車部門優勝3回 (2008年大会は中止)	市販車部門優勝7回
備考	アラコとして参戦	2005年大会よりトヨタ車体として参戦	

- ・2005年～2011年大会で、市販車部門での最大6連覇を達成
- ・現在は、2014年大会から市販車部門4連覇中

世界のくらしに、笑顔をお届けしたい



【参考2：ダカールラリー2018大会概要】

開催期間：2018年1月6日～1月20日（計15日間、14ステージ）

開催ルート：スタート … ペルー(リマ)

中間日 … ボリビア(ラパス)

ゴール … アルゼンチン(コルドバ)

総走行距離：約9,000km

2018年大会は創設40周年の記念大会であり、それにふさわしいドラマ性、競技性の高いルート設定とすることを主催者(A.S.O.*3)は発表しています。2018年1月6日にペルーのリマをスタートし、序盤戦は美しく、過酷な砂丘群を抜けるルートが用意され、2018年大会のハイライトになると予想されています。その後は、ボリビアへ渡り、首都ラパスでの中間休息日(競技を行わない日)をはさみ、クルマにも人にも厳しい標高4,000m付近の高地戦が繰り広げられます。後半戦はアルゼンチンに渡り、気温40度を超すチレシト周辺の砂丘ステージや、2017年大会で多くの競技者がミスコースに苦しんだサン・ファン周辺の枯れ川を行くステージなど気の抜きどころのないルートが用意される予定です。また、競技区間(SS)を拡大し、合計5,000km以上のSSとすることに加え、内7つのステージについては、未開の道なき道を新ルートとして用意することを発表しており、近年にないサバイバル戦になると予想されています。

*3)アメリ・スポーツ・オーガニゼーション(ダカールラリーを主催・運営)



世界のくらしに、笑顔をお届けたい

